発行日 2013年3月 No.43

日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ 1:27)



ハイライト:

- ・JCE6 テーマ懇談会、日韓教会交流
- ・宣教フォーラム・仙台報告
- ・WEA 青年宣教会議、災害対応プロジェクト

震災で問われた福音

「私たちを試みに会わせないで、悪から お救いください。」(マタイ6:13)

主の祈りの最後の部分です。「試み」とは、私たちの人生の土台が揺れ動かされる事態と言うことができます。愛するものとの死別、家、仕事、収入源の喪失、健



JEA 宣教委員長
末松隆太郎3・11で被災され
た方々は大きな日本福音キリスト教会連合
栄聖書教会牧師「試み」に会わ
れたわけです。

平穏なときには、自分と直接に関わる 者を「私たち」と考え、主の守りを祈るの がこの祈りと考えていました。しかし、3. 11以降祈る、「私たちを・・」の中に被災 した全ての人々を含めて祈るようになりま した。「試み」はそれらの人々の生者の人生を揺すぶるだけでなく、悪(悪しき引き 台を揺すぶるだけでなく、悪であることになります。神がすおいるとき でにいる。必要を満たすおうこる とを信じられない。そういう思いがを ことを信じられない。そういう思いがを 満たすとき、悪(サタン)は心を支配することになります。

「試み」(地震・津波) は来ました。しかし、その状況がサタンの自由に動き回る世界とはならず、対極の神の御手が届く「場」となるように、主の民が心を一つにして祈り、手を携え、援助と復興の手を伸ばし

てきました。多大な労が積み重ねられてきました。過日もたれた「宣教フォーラム・仙台」では、かの地での主の民の働きが、神の憐れみ、力、行き届いた配慮を明らかにする場となったことを聞き、胸を熱くした次第です。

震災を通して、改めて教えられたことは 沢山あります。第一に日本は世界の主の 民によって祈られ続けているということで す。震災から半年後に世界福音同盟(W EA)の宣教会議に出席した折りに、何人 もが目に涙をため話しかけてくれました。 その機会に訪れたドイツの宣教団の本部 では、在日の宣教師と協力し、震災直後 から神学生のチームが救援ボランティアと して活動していることを聞きました。米国 はじめ世界のクリスチャンの救援活動で多 くの必要物資が届けられ、倒壊した家屋 が建てなおされ、漁船を失った漁師の方々 に新造船がプレゼントされました。それら の多くは援助団体と被災地の教会との協 力でなされたものですが、「宣教の閉塞 感」と「孤立感」に閉じ込められ、悪(サ タン) の虜になる寸前の心には新しい光と なりました。

第二は地域の教会が垣根を越えて協力するときに、現わされる力です。以前からこのことの重要性は言われており、相模原や東海地方での宣教協力が「研究」の対象となっていました。被災地である。でもたれた会合では、牧師、宣教師、ワーがともに集い、被災地での救援活動、今後必要な働き、伝道の具体的など、様々な障壁を越えて一つの「体」として結び付けられているのを体感ったもにました。事実、福音とは縁遠かっだもれました。事実、福音とは縁遠かっだを聞いて、全ての者が感動を覚えました。も

I 次 《巻頭言》 1 JEA 活動報告 2 流れのほとりで 3-4 原発と欲望 5 宣教フォーラム 仙台 6 WEA 青年宣教会議 7 災害対応プロジェクト 8

(P.8 に続く)

JEA 活動報告 (AEA, WEA 関連含む。災害対応関係は P.8 参照。)

■ JEA 宣教フォーラム・仙台

2012 年 10 月 29 日 ~ 30 日、日本基督教 団仙台青葉荘教会にて開催。【詳細は P.6 の報告参照】

■第六回日本伝道会議 (JCE6) に向けて テーマ・理念懇談会など開催

2012年11月5日~6日、奥多摩バイブルシャレーで、JCE6テーマ・理念懇談会が行われ、JEA各専門委員長、日本ローザンヌ委員会代表者などが出席した。宣教フォーラム・仙台のテーマとなった「包括的福音」は、東日本大震災の経験から日本の教会が学んでいることであると同時に、2010年ケープタウン決意表明により世界の福音派が取り組んでいる課題であるとの認識で一致した。

日本ローザンヌ委員会は 2013 年から 2015年の3年間シンポジウムシリーズ「包括的な日本宣教を考える」を開催し、ケープタウン行動指針の日本における実践と検証を重ねていく方針。JEA 宣教委員会および JCE6実行委員会もこれに協賛し、2016年の JCE6神戸に向けての重要な準備の一つと位置づける。第1回シンポジウムは「他の信仰を持つ人々の中でキリストの愛を生きる」(2013年5月11日、お茶の水クリスチャンセンター)。

また2013年2月4日には、JCE5各プロジェクト担当者による懇談会も開催された。少子高齢化や格差拡大社会など暗い状況の中で、危機という言葉よりも福音の力、豊かさ、光、希望などをテーマの中心にしたいという意見が多かった。

■ ANRC2012

2012 年 11 月 22 日 ~ 24 日、静岡県掛川のヤマハリゾートつま恋で、ANRC (All Nations Returnees Connection) 2012 集会 (JEA 宣教委員会協賛) が開催され、約600人が参加した。今回は国内外の教職者の参加が多かった(約120名) ことが特徴。日本各地の帰国者ネットワークの情報共有や恵みの証しを通しての励ましと、自分たちが「憐れみの器として」日本の福音化に用いられようという使命の共有が呼びかけられた。

■第24回信教の自由セミナー

2012 年 12 月 1 日、お茶の水クリスチャン センターで第 24 回信教の自由セミナー「天 皇の代替わりと憲法問題」(講師:笹川紀 勝氏、JEA 社会委員会主催)が開催された。 天皇元首化を含む改憲潮流が勢いづく中、 前回の大嘗祭を振り返りつつ、憲法上の問題点、キリスト者として考え備えるべきことなどが語られた。

■世界福音同盟 (WEA) 青年宣教会議

2012 年 12 月 4 日~7 日、米国フロリダで 開催。【詳細は P.7 の報告参照】

■ NSD プロジェクトチームが始動

2012年9月に開催された日本青年伝道会議 (NSD) に実行委員として関わったメンバーを中心に、このビジョンとネットワークを継続していきたいとの願いがあり、JEA 青年委員会は、青年委員会のもとに NSD プロジェクトチームを作り、継続的に青年宣教に関わるセミナーや集会を開催していく計画を立てている。第1回の集会は、2013年9月頃を予定している。

■原発問題パンフレット出版準備

JEA 神学委員会は 2013 年 1 月下旬に合宿 し、原発問題に関する検討を行った。6 月の JEA 総会に向けて原発問題パンフレット出版 を目指している。

■日韓教会交流ツアーとアジア日本語教会 ファミリーキャンプ

2013年2月14日~18日、JEAと長年の協力関係がある韓国福音主義協議会(KEF)の呼びかけにより、JEA東日本大震災対策室、東北ヘルプ、DRCnet(東日本大震災対策室、東北ヘルプ、DRCnet(東日本大震災救援キリスト者連絡会)などの協力によって、日韓教会交流ツアーが行われた。東北の被災地域の牧師15人、JEA震災対策室関係者7人、ゴスペルミュージシャン9名などが参加し、東日本大震災に対する韓国からの大きな支援と祈りに感謝を表すとともに、被災地域の現状報告とそこで起こっている神に御業を証しした。また同時期にソウルで行われていたアジア日本語教会ファミリーキャンプにも一部合流し、次の大規模災害に向けた情報と意識の共有もはかることができた。

■東日本大震災から3年目に向けた祈り

東日本大震災から2年を迎え、JEA 震災対策室から「東日本大震災から3年目に向けた祈りのお願い」が日本の諸教会およびWEA など世界の教会ネットワークに向けて発信された。記念日だけに祈るのではなく、3年目となる一年を通じて祈り続けることを意図している。

【JEA ウェブサイトからダウンロード可能】



仙台青葉荘教会で JEA 宣教フォーラム 仙台が開催された





ローザンス運動は1974年スイス・ローザンスで開催された世界官教会記 れて「ローザンス質的 (カペナント)」を発表し、キリストの総合をホー ティック (包括的) に理解し提示することを提起しました。2010 年前7

日本ローザンヌ委員会主催シンポジウムシリーズ「包括的な日本宣教を考える」



ANRC2012 で、日本各地の帰国者ネット ワークを紹介するパネルディスカッション

『天皇の代替わりと憲法問題』

■B 時: 2012年12月1日(土) 午後2時~4時





第 24 回信教の自由セミナー 「天皇の代替わりと憲法問題」チラシ



日韓教会交流を呼びかけた KEF 会長のキム・ミョンヒョク師 (中央左)

流れのほとりで

主イエスに倣い「共に育つ」恵み

JEA 女性委員会 担当理事 金本 悟

(日本神の教会連盟 練馬神の教会)

「自分を低くして、この子どものようになる人が、天の国でい ちばん偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子ども を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

マタイによる福音書18章4~5節

「女は弱いが、母は強い」というロシアの諺がある。今の日 本社会を見て「女は強いが、母は弱い。」と私は思った。そ んな私にイエス様は、弟子たちに語られた上記の御言葉を黙 想するときを与えた。すると、母が強くても、弱くても、自分 自身がイエス様と対話しながら、子どもたちや大人たちと関わ ること (ケアすること) が大切なのだと気づいた。

昨年のクリスマスに、私は神の教会保育園の全職員に『ケ アの本質』(メイヤノフ著、ゆみる出版)をプレゼントした。10 年前に出会った本を読み直してみて、保育園の園児や職員、 教会員やJEAの皆様(特に女性委員会の皆様)を含めて、 実に多くの方々に、私はケアされていることに気づいた。その ようにケアされているのは、私が自分も他の方もケアをし、イ エス様の似姿になるようにと促されているのだと気づいた。

イエス様は、弟子たちがイエスにケアされていることを知り つつ、小さな子どもをケアすることを求めた。それは、弟子と



子どもとが互いにケアしあうときに、イエス様の高みにまで共に 成長できると教えられたのであろう。共にケアしつつイエス様 の高みに向かって歩む弟子たちの群れこそが、イエス様を頭と する教会だと教えてくださっているのだ。

「共に育つ」ことを、生活の中で子どもから教えられつつ子ど もに教えることのできる女性は、きっと強いのであろう。生きて 行くことの意味を自然に教えているからである。一方、自分の 子どもしか見えず、社会やイエス様のことを見失う女性は、多 分、弱いのであろう。そんな思いをもちつつ、私は御言葉を読 み直した。すると、人ごとでないことに気づいた。そして、私 をケアし育ててくださった多くの方々に感謝しつつ、上記の御言 葉を教えてくださったイエス様に心から感謝した。さらに、女性 であれ、男性であれ、大人であれ、子どもであれ、多くの方々 と共に、ケアし合いつつイエス様の聖さに与る「主の弟子」と しての旅に、私をも招いてくださったイエス様に心から感謝した。

身をお捨 字架の道を選ば よく祈るために 目を離さないでいなさい。 栄光を捨て、 信仰の創始者であり、 たり自分を責めたり、 問題が起きると人に目 た者となるため をあおぎ見、 に従っ れ心乱 もの た。 しいいのちを感謝し、 神につぶやきたくなる。 日々なすべきことに追 もし救 人となら から目を離さずに たイエスの ひとり山 され た。 導きを求め る。 われていなかっ 相模原グレース・チャペル 方的 私を愛し 机 完成者であるイ この恵みを忘れてはなら あげ がいきやす イエスは多忙であっ 地上 に登られ な恵みによって救 ように主のみこころ たい。 の果て の勝利を退けて十 私の た。 われると現実に ることは ١, 父なる神の 忙しいとき エスは天の 誰 なかか いかを裁 い思

阿部

エバンジェリカル・コングリゲーショナル・チャーチ

≪サンデーランチ≫ チキントマト煮 と 鮮寿司

三橋 香代子 日本福音自由教会協議会 越谷福音自由教会

二つとも、クリスマス会や愛さん会などで、簡単に作ることができて美味しい一品です。

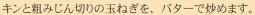
チキンの方は、前日に作って当日温めてお出しします。 鮭寿司は、当日の朝でも混ぜるだけですので、主食として、 またご飯が足りないような時の一品として、さっと作ることが できるかわいいお料理です。

★チキントマト煮 【材料】

チキン、玉ねぎ、カットトマト缶、コンソメ、 バター、塩、こしょう

【作り方】

① 深鍋を熱して、一 口大にカットしたチ



- ② その鍋に、お湯、コンソメ、カットトマト缶を加えて煮詰めます。
- ③ 塩、こしょうで味を整えます。好みでバジルを入れてもアクセントになります。

★鮭寿司

【材料】

鮭フレーク瓶、しそ、卵、白いすりごま、寿司酢、米

【作り方】

- ①ごはんを炊いておきます。四合。
- ② ごはんに寿司酢を入れて、鮭フレーク180g、白いすりごまを入れて混ぜます。
- ③ 仕上げに、飾り用の卵を焼いて薄く切り、しそのせん切り をちらしてできあがりです。



新女性委員紹介

日本福音キリスト教会連合 松見ヶ丘キリスト教会 クンツ プリスキラ

私は日本生まれのスイス人です。両親は約40年間日本で宣教活動をしていました。子どものときから両親や他の宣教師たちの神様のための尊い働きを見て、私も宣教師になりたいと思うようになりました。日本のドイツ学院を卒業して、スイスで栄養士の資格を得ました。その後、ドイツの神学校を出て、しばらくドイツの教会で奉仕をしました。

神様の恵みと導きによって1995年に日本に帰ってきました。日本語学校を卒業後、2年間奥多摩で、12年間埼玉県で宣教活動をしてきました。2011の秋から現在まで町田市にある教会で宣教師として奉仕させていただいています。

数年前から、JEMA 主催のWIM (Women in Minitry) のリトリートに参加するようになり、とても祝福されました。2011年秋に初めてWIM委員になったとき、ドロテア・ランハンス先生がJEA女性委員を辞任する予定で、後任者を探していると伺いました。私はWIMの委員になったばかりで、JEAの委員にもなる勇気はなかったのですが、ある日ドロテア先生から私に後任者になってほしいと言われ、私は神様に祈ってから、神様が私をWIMとJEAで用いてくださることを確信することができたのです。

私は弱い者ですが、神様の力をいただいて、尊い女性宣教師たちと愛する日本人女性教職者の橋渡しとして仕えたいと願っています。

日本同盟基督教団 北総大地キリスト教会 藤田 真木子

新たにJEA 女性委員に加えていただきました藤田真木子です。出身は東京。神学校を卒業後伝道師として五年、結婚して東広島市での開拓伝道、インドネシア・ジャカルタ日本語キリスト教会そして千葉県印西市・北総大地キリスト教会にて牧師夫人として奉仕してきました。一女二男の母。地域では、適応指教室非常勤職員として、不登校児童生徒の支援をしています。

JEA 女性委員をお引受けして、今まで以上に JEA の働きを知り、その果たす役割の大切さを感じています。今日の世界の動きが神の秩序から離れていくことに胸騒ぎを感じています。キリスト教会が神の言葉に堅く立って揺るがされることのないように、励まし合い戒め合うために、私の置かれた立場から役割を果たしたいと考えています。よろしくお願いいたします。





原発と欲望について

JEA 神学委員会での学びから

JEA 神学委員 斉藤善樹 (東京聖書学院)

原子力はご存知のように圧倒的なエネルギーを生み出す。だが、それがもたらす環境破壊、生命への脅威もまた桁違いである。それほどのリスクをかけてまでも人間が原子力を開発し維持しようとするのは、人間の欲望、それも飽くことのない強欲の結果ということなのだろうか。人間がこの地上で生存するために神は人間に様々な欲望、食欲、性欲などをお与えになっている。けれども神から離反した人間は、神が良しとされた創造のわざから逸脱し、欲望はしばしば強欲という姿になってしまう。強欲は人間を際限なく求めさせ、自己と他者を傷つけ、遂には破滅に至らせる。これが人間の現状だ。原子力はそのような人間の飽くなき欲望の生み出したものなのだろうか。

最初の原子力開発の直接的なきっかけになったのは言うまでもなく戦争である。独裁国家の侵略から民主主義国家を守るためというそれなりの大義名分があったにせよ、人を殺す武器として開発されたことに違いはない。そして原子力が実際に最初に使用されたのも戦争の中、それも一般市民の居住区における殺戮が目的である。戦後、日本で原発が開発、実用されるようになったのも、実際の必要が生じたと言うよりもこれも大国の政治絡みであったことは指摘されている。今も原発運用に関しても様々な人々の利権、利益、怠惰と鈍感と欲望が絡み合って純粋に正しいこと、誤ったことを判断し、それを実行しようと行動をとるのが至難のことになっている。

このような人間の罪性が絡んで今の原子力利用の事実があるわけだが、はたして原子力開発そのものが人間の強欲のなせるわざだったのだろうか。原子力の祖となるアインシュタイン、さらに遡ってニュートンなどの物理学の大きな業績は強欲のなせるわざとは言いがたい。信仰の有無に限らず多くの科学者たちは、純粋に真理の探究に己を捧げたと言って良い。原発に厳しい批判を下した高木仁三郎氏も原子力の研究そのものに関しては賛同していた。

人間の探究心(あるいは真理への欲望)そのものは人間に罪が入り込む前に、あったようである。善悪を知る木を食べてみたい、善悪を知る者になってみたいという欲求は良い悪いもなく人間の内に備わっているものと思われる。しかし、それを自在に満足させるのは正しいことではなく、人間はある程度の限度、つまり線引きが必要だと考えてきた。いくら真理の探究そのものは良いとしても、人体実験などは神がお許しになるはずがないし、人間の道徳心はそれを許さない。多くの人を傷つけることが明らかな環境破壊も神はお許しにならないことも分かる。歯止めのない欲望満足の追求は、たとえそれが真理の追究であっても邪悪なもの、罪となる。

最近、時に耳にするキリスト教や唯一神信仰が環境破壊、傲慢の出所だという批判はあまりに偏った考えだと思うが、人間の真理への探究と人間の罪的な欲望(線引きのない追求)が絡み合って現在の科学世界があるのだと思う。問題となり得るのは、真理

の探究はそれだけに留まらないで、必ずその実用に結びつけられて行くということである。実用化され、またそれが新たな真理の追究、そして発見へとつながっていく。これは避けられないことだと思う。人間の欲望は罪に汚染されやすい。バベルの塔に現れる人間の罪は無論単に高い建物を建てることにあったのではない。故に科学技術の発達の罪ではない。ただその技術発達の段階で、人がその心のうちに神のためのスペースを失ってしまったところに罪があった。そうなると、人は自分が神になろうとする。その瞬間に人間社会に差別が起こり、互いへの抑圧や虐待が起こってくる。

火を発見した人類は、それを放っておくことはしないで、それを利用することを覚えた。火の性質もその危険性も学んでいった。 未だかつて、地球上で火を利用する生物などありはしなかった。 火の利用が、人類をして氷河期を乗り切らせ、絶滅から免れさせたと考えても良いのではないか。電気の発見と実用化も然りである。それは多くの人命を救うこともできたのである。人が空を飛ぶ技術を身につけて、それを実用化しようとした際に、宗教的な反論をもつ者がいたに違いない。空は人間の領域ではないと。しかし現在、その技術は人命を救う大きな助けになっていることも事実である。けれども人間は自らの欲望、追求を止めることはできなかった

さて、原子力の問題である。私はこれを教条主義的に捉え、一つの罪の範疇に当てはめることについては疑問に思っている。地上で既に安定している超ミクロの世界に不安定さを与え、そこからエネルギーを取り出そうとするのは罪であるという線引きは私には違和感が感じられる。原子が強制的に分裂させられる様は、被造世界の苦しみそのものであり、「被造物の呻き」であるという表現も、さらに違和感を感じる。あたかも、クジラは人間の次に賢いのだから食用にしてはならない、これは罪であるという線引きと同じレベルのように感じてしまう。

環境破壊がなぜいけないか、それは人間の欲望が遂に自分で 自分の首を絞めることになるからである。また同胞の命を危険に追 いやるからである。荒っぽい言い方であるが、もし多くの人命を救 うのにある程度の環境破壊が不可欠であるならば、それは敢えて することも選択肢なのではないか。欲望は結局自己と他者の破壊 につながるときに罪となる。原子力そのものが悪なのかどうかは 未だ分からない。けれども原子力が人間の強欲と結びついたとき に悪となり、人間に破滅をもたらすものとなる。現状を見る限りでは、 原子力は人間の強欲によって支配されていると考えざるを得ない。 けれどもいつの日か、そこから人間が解放されるならば、私達は 違った目で原子力を見られるようになるかもしれない。

★ JEA 神学委員会は 2013 年 6 月に向けて、原発問題に関するパンフレット出版の準備を進めています。

東日本大震災によって見えてきた日本官教の課題

JEA 宣教フォーラム・仙台 報告

JEA 宣教委員 中西雅裕 (日本ホーリネス教団 横浜教会)

『震災で問われるまるごと(ホーリスティック)の福音』というテー マで、JEA 宣教フォーラム・仙台が 2012 年 10 月 29 日~ 30 日、日 本基督教団仙台青葉荘教会で開かれました。基調講演を西岡義行師 (東京聖書学院教授・東京ミッション研究所総主事) が担当され、シ ンポジウム1『東北の教会として震災をどう受け止めているか』を岩 塚和男師(宮古コミュニティーチャーチ)と岸浪市夫師(栗原バプ テスト教会)が、シンポジウム2『地域の再生と福音の浸透』を松田 牧人師(オアシス・ライフケア)、布山真理子師(福島 HOPE プロジェ クト)が、シンポジウム3『世界と地域の教会ネットワークによる働き』 を大友幸一師・大友幸証師(塩釜聖書バプテスト教会)と上代謙師 (兄弟団・福島教会)、木田惠嗣師 (郡山キリスト福音教会) が担当 されました。また分科会として、『被災地の女性の働き人の分かち合 い』、『死者儀礼・伝統習俗とどう向き合うか』、『被災地での伝道の 実践』、『心のケアの実践と教会の災害対応』、『ディアスポラ宣教協 カ』の5つが行われました。29日の夜には、フォーラム参加者に仙 台地域の諸教会の方々も加わって『被災地宣教協力の夕べ』(永井 信義師コーディネート) の集会ももたれました。



2011年3月11日に起こった東日本大震災は、たくさんの死傷者を出し大きな被害を与えた悲しい出来事でしたが、同時に日本のキリスト教界に大きなチャレンジを与えました。このフォーラムでは、被災地域の牧師たち

から震災後の協力・宣教状況の生の証言を聴くと共に、それに対する質疑応答や小グループでの議論も行われ、多くの示唆が与えられました。準備段階から関わった者として、いくつかの報告をさせていただきます。

1. 震災によって、人々の関心がキリスト教に開かれている

震災後、教会を拠点として物資援助がなされ、多くのクリスチャンのボランティアが継続してこの働きに関わってきました。このことを通して、福音宣教が困難だった地域の人々が、福音に心を開いてくれるようになりました。以前は話を聞こうともしなかった人々が、クリスチャンを「キリストさん」と呼んで受け入れてくれるようになっているのです。「収穫は多い」(マタイ9:37)、「この囲いにいない他の羊がある」(ヨハネ10:16)とイエス様が言われたように、日本の教会

が教会の内側ばかり見ていないで、積極的に 外に出て行くことへのチャレンジが与えられてい ると思います。

2. 震災によって、教団間の垣根が低くなった

支援の最初の段階である物資援助は教団の 違いに関係なく行われました。実際、そうしな ければ支援は進まなかったでしょう。しかし時 間が経ち、精神的・霊的支援に移っていった時、各教団・ 伝道団体の独自性が出てきました。独自性それ自体は悪いことではないのですが、日本の宣教が進まない理由に、各教団が独自性を主張し過ぎるあまり協力ができにくかったことがあげられています。



開会メッセージを語る田中敬康師 (インマヌエル仙台教会)

JEA 宣教委員会は、この点を危惧して、被災地での宣教協力を支援するため、昨年2月の宣教シンポジウム開催など、各教団・宣教団体の情報や意見交換の機会を提供するように努めてきました。1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災の時には、すぐに教団間の垣根が伸びてきて、宣教協力を進めることは難しかったと報告されています。しかし幸いなことに、東日本大震災の被災地では各教団の影響力はそれほど強くなく、協力体制を敷いて行かなければ宣教は進まない状態です。地域に宣教ネットワークが作られ、宣教協力が進められています。この働きは宮城県で主に進められています。イエス様の十字架は隔ての中垣を取り除きました(エペソ2:14)。被災地での宣教協力は日本全国での宣教協力の先駆けとなればと願います。今の時代、各教団は教会の統廃合をも視野に入れざる得ない状況がありますが、この面でもネットワーク作り、情報交換と宣教協力は大きな力となると期待します。

3. 岩手・宮城は被災が過去形であるが、福島は現在進行形である

岩手県・宮城県では、地域差はあるものの、復興も少しずつ進み、宣教面でも新しい展開を見せていますし、多くの学ぶべき点があります。しかし、福島県は今も原発事故による被害が現在進行形で続いています。住むことができなくなり多くの人々が移住を強いられた浜通り地区、放射線量が比較的高く被曝を恐れて生活している中通り地区、移住者を受け入れている会津地区。いまだに先が見えず、この状況はいつまで続くかわかりません。他の二県とは違った状況ですが、福島の教会は地域に仕えています。会津地区の教会は浜通りに帰ることができない仮設住宅に住む人々の心のケアーをしています。中通り地区では放射線量の低い地域に親子を招くキャンプを企画し、多くのリピーターがあるとの報告でした。同時に、県外へ転任して若い牧師たちがいなくなったとの報告や、牧師の子息が甲状腺検査で悪い結果が出たとの話もありました。福島の教会やクリスチャンたちは必死で頑張っています。私たちも何でもできることをして、福島の

教会を支えていきたいと願います (エペソ 12:26)。

東日本大震災によって多くの人々が生命を失い、 大きな被害を受けたことは悲しいことです。しかし、 私たちはこの震災とその後の働きから神の御声を聞 き、東日本大震災後の日本に生かされている者とし て、ここから学び、宣教の進展のために活かしてい く責任を問われているのです。



被災地宣教協力の夕べ

グローバルな青年宣教のビジョンと協力

WEA 青年审教会議 報告

JEA 青年委員 川口竜太郎 (hi-b.a. 高校生聖書伝道協会)

2012年12月4日~7日、米国フロリダ州で行われた世界福音同盟(WEA)青年委員会主催の青年宣教会議に出席してきました。アフリカ諸国、中国、日本、インド、インドネシア、中東諸国、ドイツ、イギリス、アイルランド、米国、カナダ、アルゼンチンなどから約30名が参加していました。今回の会議の主な目的は、2014年10月に韓国ソウルで開催予定のWEA総会に向けての準備で、①世界各地域の課題や必要を分かち合い、②WEAがどのように関わるのかを検討し、③世界規模のユースミニストリー戦略をたてる、というような内容について話し合いが行われました。

JEA 青年委員会からこのような大切な会議に派遣されることに、自分が行くのが適任なのだろうかと初めのうちは戸惑いましたが、最終的には会議に出席できたことを感謝しています。特に、世界各地で青年宣教に取り組む代表者たちと出会えたことは、私自身にとってかけがえのない経験になったと感じています。

会議の日程は3泊4日という短い期間でしたが、日本を立つ前に様々なことを考えさせられました。なぜなら、自分が報告する内容が今の日本の現状だと捉えられる可能性が高いので、会議の出席者が30名ほどといえども、発信する内容を吟味しなければいけないと思いました。そして、より多角的に日本の青年伝道の現状を伝えられるように務めました。

その過程で気付かされたのは自分の視野の狭さでした。自分の所属する団体 (hi-b.a. 高校生聖書伝道協会) のことしか考えていなかったという点です。パラチャーチとして日本の教会に尽くし、他団体に尽くし、高校生伝道が前進して行くのを望むことは、hi-b. a. に与えられている使命であり、常に意識してはきました。しかし実際のところ、日本の様々な宣教状況の理解や認識が浅かったということに気づかされました。

会議に出席する前にどのような青年宣教が日本で行われているかを調べ、思い巡すことができて感謝でした。その中でも特に被災地で活動している様々なクリスチャンボランティア団体を訪問できたことが自分にとって必要な経験でした。

会議では様々なディスカッションが行われました。文化の違いは大きく、興味深いものでした。国によっては青年層の年齢が異なっていたり、貧富の差や、風習によって集会のスタイルもニーズの違いも多くありました。その違いを乗り越えて(違いを楽しみつつという感じでしたが…)キリストにあって一つとなり、同じ思いで宣教していこうと話し合いました。まだまだ検討の余地がある部分もありましたが、まるで高校生が伝道集会の企画を真剣にしている時のように、各地域、各団体の代表者たちが真剣に話し合う姿が強く印象に残りました。

また、日本からのWEA会議の参加をとても喜んでくださり、WEA青年年委長であるコリン・今後も協力して行きもはしよう」と何度ももないけてくださいました。今後グローバ



世界各国の青年宣教リーダーたちと

ルなスケールで各地域の福音同盟、宣教団体同士が協力し、支え合い、行動を伴った愛で愛し合うことを願います。私も hi-b.a. という団体の一スタッフにすぎませんが、JEA 青年宣教委員会の一人として世界各国の福音同盟や宣教団体に対してできることから実行していきたいと思います。

「そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。」(ピリピ2:1~3)

2013 年度 JEA 青年宣教セミナー開催のお知らせ



参加費:一般 10,000円 学生 4,000円

対象:青年宣教に関心を持つ教職、信徒、青年

会場:奥多摩バイブルシャレー



★ 申し込み方法などの詳細は JEA ウェブサイト (http://www.jeanet.org/) からチラシをダウンロードしてご確認ください。

(P.1 より続き)

ちろんお互いの深い信頼関係があればこそではありましょうが、このモデルこそ日本宣教の「閉塞感」を突破する鍵ではないか。個々の教会の受け継いでいる伝統、信条を大切にしながら、しかし、同じ地域に置かれている教会として、一体性をもって働き、機能していく機会を見つけていく必要があると思わされます。

第三には「宣教」理念の再構築です。震災直後は水、食糧、衣類に始まって住む場所の確保が急務でした。やがで、それは傷んだ心のケア、働きの必場に答えることに重点が変わっていきました。この段階まで主の民が払ってきた労は多大で、頭が下がります。被災した方々の必要に答える中で、良きコンタクトが与えられ、福音に心を開く方々も起こされてきまけた。しかし多くの支援を目的としたクリスチャンのは使命を終え、撤収を始めています。しかし、貴所につなげられる必要を覚えています。しかし、都市部の働きとは異なり、一定の年数を限って自立すること

も、一つの建物に集まる教会を建てあげることも、いわゆる教派教会を落下傘降下のような形で形成することも理にかなっていません。その地にふさわしい教会とは何か模索をしています。同時にこの模索の中に、新しい日本伝道の鍵が隠されている予感をも感じています。

第四に「苦難」の深い理解です。地震も津波も自然災害で、原発事故も含めてもたらされたものは「苦難」です。世界に目を転じると、イスラム圏での「アラブの春」は、キリスト者にとっては「春」ではありません。よりイスラムへの伝統回帰が強まる中で、過酷な迫害の中に置かれています。共産圏のキリスト者も、牢獄と背中合わせに生きています。これらも「苦難」の一つです。信仰をもてば苦しみから解放され、経済的な富はまし加わり、社会的に上昇が保障されると考える「繁栄の神学」の枠組みからは理解しにくい事態です。しかし、「苦難」を通して苦しむ難として世界とつながり、キリストの十字架(受難)と世界の主の民とつながることの不思議を改めて覚えさせられます。

東日本大震災から学び、次の災害に備える災害対応支援プロジェクト

東日本大震災以来、日本列島は地震の活動期に入ったとされ、首都圏直下地震や南海トラフ巨大連動地震など、政府や各自治体も従来の対策を大幅に見直しています。

このような地に神の民として遣わされているわたしたちは、単なるトの災害時にキリストの乗かかち合う隣り人となるために、害労を分かち合う隣り人となるため、災害時にキリストに悪災の経験から学び、災害者により、近日本大震災の経験から学び、災害者をしなければならな対策世末を見いる。JEA 東日本大震災対策世軍を入り、カイン、カイン、カイン、カイン、大力と協力のプロジェクトに取り組んでいます。

■災害対応チャプレン養成コース

2012 年 7 月、11 月 の 準 備 フォーラム を 経 て、2013 年 2 月 5 日 ~ 7 日、成田ビューホテルで、災 研修会(DRCnet 主催)が開催され、51 人が参加しました。米国救世軍所属で、9.11同時多発テロ被害者など、災害ラーズ博士によるトレーニングで、受講者



2月の災害対応チャプレン養成コース 研修会で教えるケビン・エラーズ博士 (左端)

は被災地での働きのレポートを出すことで、国際緊急時ストレス財団(ICISF)認証コースの修了証を取得できることになりました。

今後、基礎、中級、上級の3レベルに分けたカリキュラムで日本全国に 災害対応チャプレンとして働ける人材 を育成していきたいと願っています。

■首都圏災害対応プロジェクト

教会の災害対応ネットワークが手 薄で、被害が心配されている首都圏 災害について、DRCnet のもと、クラッ シュジャパン次期東京災害担当の栗 原一芳師を中心に、地域の牧師会で の防災セミナー実施、ブログによる 情報発信などを行っています。また、地域の災害対応ネットワーク作りを支援するツール(防災チェックリスト、SNS、災害情報収集アプリ等)の開発を、ホィートン大学災害支援研究所(HDI)と協力して行っています。

また、アジア福音同盟 (AEA) レベルの取り組みとして、2013 年9月 16日~20日にフィリピンのマニラで、フィリピン福音同盟とHDI 共催の教会の災害対応に関するカンファレンスを開催することが決まりました。これは2014年 10月の世界福音同盟 (WEA) 総会時に、世界規模の福音的教会による災害対応プロジェクトにつなげていくための準備です。

地球規模での気象異常により自然災害対応な中、災害対応は決ちの民の使のであり、ケープも対抗的と明の重要な一分野を活るとで、といるが経験しています。東日本の教をが経験しずれて対会が経験しずれてならがは世界宣教の重要な一級を担っているのです。

(JEA 総主事 品川謙一)

総務局から

- ◆第28回JEA総会は、2013年6月3日~5日、神戸市ポートピアホテルで開催されます。
- ◆各加盟団体への連絡にメールを使用することが多くなっています。担当者、メールアドレスの変更などは速やかに総務局までお知らせください。
- ◆2013年度のJEA総務局は、品川謙一(総主事)、松下和弘(総務局次長)、小野寺従道(総務局次長)、石田敏則(総務アドバイザー)、西田幸子(事務スタッフ)、加藤知子(事務スタッフ)です。どうぞよろしくお願いします。



日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ1:27)

JEA ニュース 43 号 発行・日本福音同盟 (JEA) 発行者・安藤能成 編集者・品川謙一

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1OCC#615 TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933

email: adminoffice@jeanet.org web: http://jeanet.org/